

核兵器のない世界へ 平和への思いを川口市から発信

川口市は、昭和60年12月21日「川口市平和都市宣言」を宣言。その後、核兵器のない平和な世界の実現に取り組む平和首長会議に平成21年8月3日に加盟(2021年7月1日現在165か国・8037都市(国内加盟都市数1734都市))しました。

昭和63年から企画展がはじまり、今年もコロナ感染対策をしながら継続され34回目の川口市平和展が、7月12日(月)から16日(金)まで「未来へ伝える平和の大切さ」をテーマに、川口市役所本庁舎一階の多目的スペースで開催されました。広島平和記念資料館や埼玉県平和資料館などから貸し出された展示のパネルなどによって、当時の戦争の悲惨さと平和の尊さが伝えられました。

党市議団は川口市に対し、平和展の取り組みを多角的に行うことや核兵器禁止条約の署名・推進を政府に求めることなど、平和への思いを川口市から発信することを6月定例会市議会でも求めました。以下、今後の取り組みをご案内します。



▲7月12日 市議団平和展に参加

peace

peace

peace

peace

「原爆と人間展」川口原水協・川口市職員労働組合共催

日時／7月28日(水)～8月6日(金) 9:00～17:00

場所／川口市役所第一本庁舎1階 多目的スペース

2021平和のための埼玉の戦争展(オンライン開催)

日時／7月31日(土)～8月2日(月) 10:00～17:00

ホームページ <http://www.kikanshi-nw.or.jp/peace>

知っ得情報 川口市奨学金貸付制度について

川口市では、市内に居住する世帯に属する方が、経済的な理由で修学が困難な場合に奨学資金の貸し付けを行う制度があります。(奨学資金の貸付は、奨学生本人に対して行われるもので、返還も奨学生本人が行うものです。)

申請要件は以下の通りです。

- ①2019年1月31日以前から継続して、市内に居住している世帯に属する方で、修学意欲が極めて旺盛であること。
- ②学校長の推薦があり、成績優秀・品行方正であること。
- ③高校・高等専門学校・大学・短期大学・専修学校(正規の就学期間が2年以上の高等課程又は専門課程に限る)に入学予定又は在学中で、学資の支出が困難であること。
- ④本人と同居・別居を問わず、生計が同一な方全員の市県民税課税標準額の合計が「250万円未満」であること。

申請期間は

第1期／8月16日(月)～8月20日(金)、

第2期／10月1日(金)～10月29日(金)、

第3期／2022年1月11日(火)～1月21日(金)です。

(土、日、祝日を除く8時30分～17時15分)

貸付金額は高校、高等専門学校、専修学校(高等課程)が入学一時金として公立18万円以内、私立30万円以内、修学金は月額12000円以内です。また、大学、短期大学、専修学校(専門課程)が入学一時金として公立36万円以内、私立50万円以内、修学金は月額24000円以内です。

新川口

2021年7月25日 No.1617

日本共産党川口市議会議員団

川口市前川 2-28-10

TEL.267-8411 FAX.261-3528

お問合せは



日本共産党市議団 TEL.048-267-8411
教育局庶務課 TEL.048-271-9476まで

公立夜間中学での 一人ひとりの学びの保障のために



川口市に公立夜間中学が開校して今年4月で3年目となりました。芝西中学校陽春分校として旧県陽高校の校舎を活用して始まり、2021年4月の在籍生徒は65人となり、うち新入学者は22人です。

在籍生徒のうち川口市内に居住する方が34人、さいたま市や戸田市、蕨市、草加市など県内14市から通学されています。年代も10代～80代と幅広く、外国籍の方の在籍割合も70.8%となっており、日本語の習熟や学び直し、高校への進学を目指すなど、学校での学びの目的も、学習の習熟なども一人ひとりちがいで、多様な方々が共に学んでいます。

夜間中学での教員の体制は、設置当初から課題にもなっており、一人ひとりの課題、個々の状況に応じた学習を保障するための教員の配置には市だけでは対応できないため、埼玉県との役割が大きくなります。

2021年度は1学年1学級の計3学級でスタートしていますが、教員の定数が8人(校長含む)、加配教員が3人、それに加えて非常勤で6人の教員が配置されています。特に、幅広い年代の方が在籍している陽春分校では60代～80代の方も12人おり、養護教諭の配置が大切になっています。開校初年度は養護教諭が県から配置されず、市費で対応していましたが、学校の状況を県にも伝える中で、2年目からは県費での養護教諭の配置ができるようになりました。

生徒指導上の課題や個々の学習の状況に応じた対応など、きめ細やかな学校の運営が必要となります。県や他市との連携を進めながら、今後も夜間中学への入学を希望される方たちの学びを進めることができるよう、日本共産党市議団も皆さんの声を届けていきます。

川口市立芝西中学校陽春分校の国籍別在籍者数

居住地	2019年度入学	2020年度入学	2021年度入学
日本	30人	34人	19人
中国	21人	22人	16人
ベトナム	6人	4人	3人
韓国	4人		
トルコ	2人		4人
ブラジル	2人	4人	3人
ペルー	2人		
フィリピン		5人	6人
パキスタン		4人	3人
(他の国籍)	11人	13人	11人
合計	78人	86人	65人

待機児童の解消には 公設公営保育所の新設を

「子ども子育て支援法・児童手当法」の改定が5月に国会で行われました。この改定については待機児童解消のため、今後4年間で14万人分の保育の「受け皿」を整備する財源確保のためだとされています。

川口市の2021年度待機児童数が発表されました。昨年度には6施設353人が新たに整備され、合計190施設・定員11,562人となりました。今年度の申込は3,032人、「利用保留児童数」(不承諾者数)は778人、待機児童数は30名でした。

多くの保護者が望むのは、安心して預けられる「保育所」です。保育の「受け皿」という言葉が象徴するように、規制緩和の中で定員超過や園庭もない保育所が増え、このコロナ禍で子どもたちの生活の場として安全が保たれているのか疑問が残ります。また、児童手当の改定では61万人もの子どもに対して児童手当はゼロとなります。今行うべきは、子どもの貧困対策の是正とともに、待機児童対策は保育の量と質の向上をめざすことだと日本共産党は主張しました。

川口市においても、公設公営保育所はこの4月から並木保育所が休園となり、現在運営している保育所は1所減の26施設となりました。公設公営保育所は地域の子育て施設の拠点であり、保育の質の向上や平準化にとっても重要な施設です。日本共産党市議団は、公設公営保育所の拡充および新設を6月議会でも求めました。

